

## スタンプラリー in 日野宿 2022 (第 102 弾)

令和 4(2022) 年 5 月 7 日(土)、3 年ぶりに本物の”ドデカスタンプ”を使った「スタンプラリー in 日野宿 2022」を開催しました。

心配された天気も何とかもってくれ、スタンプ帳を購入していただいた方だけでも 475 名でした。小さなお子さん連れの参加が多く見られ、実際の参加者は 1000 人を優に超え久しぶりのほどよい賑わいとなりました。コロナ禍で日常生活にさまざまな制約が課せられるなか、日野宿の魅力に触れる楽しいひとときとなったとしたら誠に幸いです。

なお、今回の開催にあたり、スタンプポイントのスタッフとして、個人ボランティアの皆さんのほか、地域の自治会、商店会、日野一中、大坂上中、日野高校の生徒の皆さんや教員の皆さん、ひの児童館で活動する大学生の皆さん、東京ヘリテージマネージャーの会など、約 100 名の方のご協力をいただきました。また、スタンプポイント場所を提供していただいた皆さんをはじめ、備品等を快くお貸しいただいた皆さんにも大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、日野駅ポイントでは、ロシアによるウクライナ侵攻にともなう難民の皆さんへの人道支援を目的とした募金活動を合わせて行いました。募金額は 29,246 円。国連難民高等弁務官事務所に寄付させていただきました。ご協力いただきました皆さん誠にありがとうございました。

<付記>今回、これまでの 17 ポイントに加え、旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室が加わり 18 ポイントとなりました。このスタンプのデザインは日野一中の美術部の皆さんが手がけ、ゴム版彫りを日野宿発見隊のメンバーが行いました。



受付の日野駅東ではウクライナ支援のキャンパを呼びかけ、多くの皆さんのご支援をいただきました。



日野煉瓦橋前にも行列ができました。

## 仲田の森蚕糸公園内、通称「桑ハウス」で

### 「本と写真のまちかど図書室-桑園-」を開催（番外編）

同年 6 月 25 日（土）、仲田の森蚕糸公園内の通称「桑ハウス」で「本と写真のまちかど図書室-桑園-」を開催しました。貴重な蚕糸試験場の昔の写真の展示と「桑・蚕・養蚕」関係の図書コーナーも設置しました。キャナルマーケットに来店された皆さんに立ち寄っていただくことができました。



お土産に特製ストラップをご進呈



「日野郷土かるた」を楽しむ子どもたち

## 日野一中の生徒たちと用水清掃＜番外編＞



同年 7 月 14 日（木）日野第一中学校と日野宿発見隊による用水清掃を実施しました。

日野宿発見隊では平成 26(2014)年から生徒有志の皆さんとともに、学校敷地内や校舎周辺を流れる日野用水（下堰）を清掃してきました。しかし、コロナ禍を受け、令和 2・3 年は中止。実に 3 年ぶりの用水清掃でした。

今回は緑と清流課、ひの児童館の職員の皆さんも参加して下さいました。ご協力いただき誠にありがとうございました。

## 夏休み！親子で調べよう日野用水（第103弾）

同年7月23日（土）の午前中、新東光寺地区センター（日野市栄町3-14-1）前の用水で「夏休み！親子で調べよう日野用水（第103弾）」を開催しました。

参加者は9組の親子（子ども10名、大人11名）とスタッフ8名（うち事務局2名）、計29名でした。

9日前に日野一中周辺の用水清掃を行いました。この日はその用水に棲む生き物を観察しようというイベントです。大変日差しが強い日になりましたが、用水に沿った街路樹の木陰と、水辺に吹くささやかな風が心地良く、水量は比較的少なめで、子どもたちが水に入る催しには好ましい状況だったと思います。



大きなサワガニの出現にびっくり！

という習性があります。令和元(2019)年の同じイベント中にも発見されていますが、今年も新しい世代が海から帰ってきた姿を見ることが出来て安心しました。蟹たちが帰って来られる環境は維持できたようです。

今回のイベントに参加した子どもたちも、おそらくかなりの割合で、いずれ日野市から出て行きます。単純に、大きくなったらまた帰ってきて欲しい、とは私は思いません。

子どもたちには、どこで生きていくか、自分で選べるようになって欲しいな、と思います。

なお、今回捕まえた生き物は、モクズガニのほか、カマツカ・カワムツ・オイカワ・ザリガニ・ヤゴ・スジエビ・カワニナなどでしたが、今年もバスが捕獲されましたので、こち

イベントの開始直前に、水路の様子を見ていた隊員が、偶然モクズガニを発見し、捕獲に成功しました。この蟹は、川の蟹としては大型種で、甲幅は7-8cm、体重180gほどになります。参加者の皆さんも「こんなに大きな蟹がいるんだね」と、驚いていました。この蟹は、成体は川で過ごしていますが、秋になると海へ移動して繁殖し、生まれた幼体は海で過ごします。そして海で成長すると、また川を上って帰ってくる



とった生き物について、井上さんからおはなしをききました

らは可哀想でしたが処分し、そのほかの生き物はすべて用水に放しました。(N.S)

## 第 15 回 八坂の祭り写真展 (第 104 弾)

本年もコロナ感染症対策として八坂神社の神輿渡御は中止となりましたが、日野宿発見隊では恒例の八坂の祭り写真展を開催させていただきました。今回も八坂神社の玉垣と南側フェンス及び森町消防器具置場壁面と竹間家駐車場フェンス に、明治期から令和3年までの写真、計71点を展示しました。また、9月7日(水)からは日野駅駅舎(旧たい焼きガラス壁)にも4枚展示させていただきました。

未だにコロナ感染に翻弄され続ける状況ですが、このひと月、懐かしい祭りの写真をご覧いただき少しでも気を紛らわしていただけたとしたら幸いです。



八坂神社の裏の展示風景



日野駅の旧たい焼き屋の窓にも展示

## 第 18 回子ども発見隊「行灯をつくろう」(第 105 弾)

同年12月17日(土)午後3時から日野市中央公民館講座室にて、前年に続く2回目の「行灯をつくろう」を開催しました。

2か月の赤ちゃんを連れた母娘を含む7組(母娘連れ:3組 父娘連れ:4組)が参加してくれました。

講師の指導のもと、まず、あらかじめ組み立てられた木枠に貼る半紙に、水彩やクレヨンなどで「来年の干支のうさぎ」など各組思い思いの絵を描いてもらいました。子どもたちは日頃から絵を描くのが好きなのでしょうか、短い時間にもかかわらず、お父さんやお母さんといっしょになって楽しそうに描いていました。

この後、できあがった絵を木枠に糊付けるのですが、これがちょっと一苦勞。でもみなさん手を取りあい上手に完成することができました。一生懸命に取り組むみなさんの姿が

とても微笑ましかったです。

それから完成した行灯を抱えてお隣の普門寺へ向かい、灯り（LED）をともしたうえで、夕闇迫る本堂前にそれぞれセッティングし記念撮影をさせていただきました。

師走のせわしない時期でしたが、行灯の幻想的な趣にしばしの安らぎを覚えたのは私だけでなかったようで、翌日撮影した写真をみると、灯りがともされた厳かな本堂からご本尊さまも目を細めてご覧になっていたようです。（H. I）



お母さんと力を合わせて



普門寺境内で点灯

注記 当日、図書館協議会のEさんの見学と久々のJCOMの取材撮影がありました。

## 「親父の話」有山至さんが、

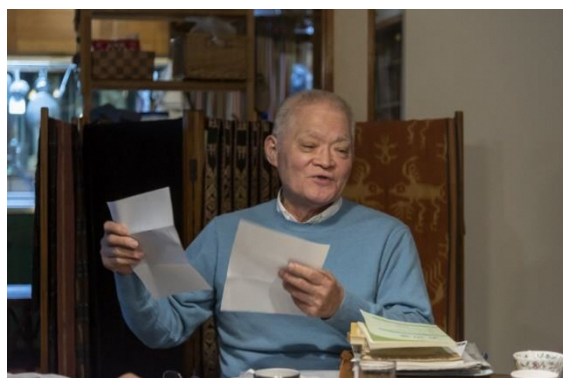
### 父・有山<sup>たかし</sup>崧さんを語る（第106弾）

同年11月5日（土）の昼下がり、カフェ花豆に、18人が集まりました。迎えてくれたのは、このカフェを営む有山至さん<sup>ゆきこ</sup>さんご夫妻。日野宿発見隊が、元日野市長 有山崧さん（右写真）について、息子の至さんからお話をお聞きしたいとお願いして実現したものです。



有山崧さんは、昭和 40(1965)年 9 月 21 日、日野市立図書館が移動図書館ひまわり号一台でスタートしたときの市長。初代館長の前川恒雄氏（令和 2 年 4 月 10 日没）とともに、その後の公共図書館のあり方を大きく変えた人です。

有山崧さんを間近で見つめてきた至さんは、「今でも父親が大好き」と話されました。二人でよく飲み歩いたこと、進路で迷ったとき背中を押す言葉をくれたこと、市民のために見えないところでも尽力していたこと。有山崧さんは、昭和 44(1969)年 3 月 16 日、57 歳で亡くなりましたが、そのお人柄は、息子である至さんに引き継がれ、多くの人を支えています。(Y.H)



父、有山崧さんを語る至さん



## 日野市在住の外国人の皆さんと日野宿巡り（番外編）

日野市国際交流協会の協力依頼を受け、令和 5(2023)年 3 月 25 日(土)、日野宿発見隊 4 名で日野宿をご案内しました。

参加された方は、日野市在住の外国人の方 4 名、スタッフ 5 名、日本人ボランティア 5 名の計 14 名。

2 グループに分かれて日野宿本陣、日野宿交流館、とんがらし地蔵、坂下地蔵、日野用水親水広場、大昌寺をご案内。当初は日野宿の東の端、福地蔵まで案内し、近くにある市民の森スポーツ公園でお花見をする予定でしたが、残念ながらこの日は雨。コースを短縮させ、生活・保健センターの会議で休憩。美味しいお団子を頂き、まち歩き感想を中心に参加された皆さんと交流しました。

今回、外国人の方をご案内するにあたり、やさしい日本語で話すよう心がけましたが、甲州街道、日野宿、日野用水…ついつい難解な熟語が多くなってしまいます。しかし、そ

こをうまく「まちかど写真館 in ひの」が視覚的にサポートしてくれました。

なお、参加された方のなかにウクライナ出身の方もいらっしゃいました。楽しい時間を過ごすことができたのならば幸いです。(Y. I)



大昌寺の参道の桜を鑑賞した後は 美味しい  
団子をいただきながらの歓談となりました

